

平成29年5月23日(火)

老球の細道328号

平成28年度JBA公認コーチ講習会

会津バスケットボール協会 室井 富仁

5月7日(日)会津学鳳高校において福島県の「平成29年度JBA公認コーチ」講習会が開催された。今年度からすべてのカテゴリーで「公認コーチ」資格が義務づけされるために過去最高の220名の受講者が参加した。私は昨年同様講習会の1回目の講義「指導者の役割」を担当した。

車は2年に1回車検があり、健康診断は1年に1回あり、それぞれ定期的にメンテナンスをしている。毎年の公認コーチ講習会は、私にとっては「コーチ」のメンテナンスにグッドタイミングである。10年以上この仕事を続けているが、この講義の準備する度に新しい気づきが得られ、とても良い勉強の機会が与えられ感謝している。

テーマの「コーチの役割」については、受講者がミニの保護者、中学校の未経験顧問、大学生などが多いことから、コーチがいかにやりがいのある仕事かを基本的な4項目にまとめて話をした。主な内容と要旨は下記のとおりである。

1・コーチとは何か

コーチの語源はハンガリーの「大型四輪馬車」にある。大切なお客様を目的地まで運ぶ仕事からスポーツの指導者にも使われた。だから、コーチとは権力者ではなく、大切な選手をサポートしてやることに本質がある。選手や家族の大切な時間を預かるので片手間に誰でもできる仕事ではない。大変な仕事であるが、選手の人間としての成長を見ながら、勝利の感激、敗北の挫折を共に味わうことができるのはコーチの特権である。

2・コーチの哲学

コーチは勝ったり、負けたり、周囲の批判を受けながら激動の日々を生きていかなければならない。そのような不安定な世界でぶれないで生きていくために、また、バスケットボールを続ける意義を見出していくためにもコーチは3つの哲学を持たなければならない。「人生哲学」「コーチング哲学」「バスケットボール哲学」。コーチの最も大切な土台となる部分である。哲学の追及に終わりはない。答えも簡単には見つからない。

3・コーチングの目的

ほとんどのコーチの重要な目的は3つにまとまる。「バスケットボールの楽しさを伝える」「バスケットボールを上達させる」「勝てるチームを創る」。ジュニアで勝たせることではなく、シニアで大きく成長させるためにはこの3つの順序を間違えてはいけない。「プレイヤーズファースト」によって自分で意思決定して、状況判断しながら動く選手ができる。そのためには「楽しさを伝える」ことをコーチングの第一の目的にする。

4・コーチの研修

コーチはバスケットボールを学問と位置付けて常に学び理論武装し、研修に努めプロとしての能力を伸ばす。理論は実践に意味を与えてくれる。理論なき実践は危うい。コーチの理論が浅いと選手は伸びない。コーチが学ぶことをやめた時は潔くコートを去ろう。

コーチは選手にとってヒーローであり人生のロールモデルである。私は高校時代、恩師菊地長康先生に出会って人生が変わった。選手にとってコーチとの出会いは人生を変える。菊地先生のような素晴らしいコーチがたくさん育ってくれることを願ってやまない。